

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 2 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日. Values include 4070300688, 株式会社 ウキシロケアセンター, グループホーム いこいの里 中原 1階, 福岡県北九州市中原西2丁目7-8, 令和2年2月12日.

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先, URL: http://www.kai gokensaku.jp/40/index.php

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 4 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日, 評価結果確定日. Values include 株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター, 福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号, 令和2年2月21日, 令和2年3月30日.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭の延長線上をテーマに、入居者様の人格を尊重し、笑顔でよりそえるあたたかいケアの提供を目標としている。入居者様一人ひとりの状態に合った支援や、生活する上で自信をつけて頂けるよう食事の盛り付けや食器洗いのお手伝いをしている。また、大人数でのレクリエーションや少人数でのレクリエーション等、状況に合わせてレクリエーションを行っており、2ユニットの特性を活かしている。地域密着型施設として地域行事に参加したり、散歩を行う等近所の方々とふれあえる時間を設け、入居者様が気分転換できるよう笑顔の多いケアに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

協立医療機関やスーパー、JRの駅等が近く、利便性の高い場所に「いこいの里 中原」は位置しており、開設して15年の歴史を持つ。県内外で介護事業を展開する法人のスケールメリットも発揮しながら、クルーミーティングや各種委員会、プロジェクトチームの発足等を通じて、サービスの質の確保と職員の自己実現の機会の確保に取り組んでいる。また、あらためてアセスメント様式の改善に取り組み、新たな視点の確保や業務改善に取り組む等、認知症ケアや事業所の活性化に向き合っている。地域の伝統行事にふれる機会も多く、地域密着型サービスとしての存在を高めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 58-64 contain evaluation data for various service aspects.

自己評価および外部評価結果					
自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を職員が確認しやすい位置に掲示すると共に、毎朝 朝礼時に唱和することで、理念の共有を図り、スタッフの意識向上に努めている。また、売上げ目標を掲げ、達成に向けて防げる入院や事故の防止にも努めている。	企業理念「将来に夢を持てる企業を創る」のもと、使命や信条、行動指針等を定めている。新人研修や法人代表者による講和、事業所のオリエンテーションにて共有を図り、実践に結び付けるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	中原市民センターでの文化祭・戸畑生涯学習センターでの戸畑区年長者・障害者作品展等地域で行われる行事への作品出展や見学、ウエル戸畑で行われる敬老会などに継続して参加している。	市民センターの文化祭や戸畑区主催の年長者・障害者作品展の見学に出かけ、入居者の編み物作品も出品されている。また、中学生の職場体験を受け入れている。近隣の公園へ散歩に出かけ、地域の方との自然体での交流場面もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域活動に参加することで、認知症の方の社会交流を繋げている。運営推進会議では、地域の方々に認知症対応について報告、相談を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政や家族、地域の方の参加があり、情報交換ができています。お互い話しやすい関係性が築けており、接遇や入居者の対応につなげる事ができています。	定期開催される運営推進会議には、家族代表や民生委員、福祉協力員、地域包括支援センター担当者等の出席を得ている。ヒヤリハットや事故報告、身体拘束の研修内容やチェックリストの説明等が行われ、意見交換やアドバイスをいただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃より市町村と連絡をとり、相談、助言を頂く等連携をとっている。 より良いサービスが提供できるよう今後も連携を図っていく。	運営推進会議には、地域包括支援センター担当者の出席を得ており、事業所の実情を共有し、開かれた事業運営に努めている。困難事例への対応や入居の問い合わせ、ケースワーカーの方との情報共有等、日常的に連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会社全体で研修を行い、身体拘束、虐待について周知徹底を行っている。事業所のミーティングや運営推進会議でも議題にあげ、情報共有を行い、意識して取り組んでいる。玄関前やEV前に人感センサーを置き、人の出入りの際オルゴール音にて気付けるようにしており 身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	福岡県身体拘束0宣言に参加している。身体拘束の適正化に向けた指針を作成し、研修実施や定期的な委員会開催、運営推進会議の中での報告や情報提供等を通じて、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内の研修、学習会で虐待について学べる機会があり、虐待の無い介護に努めている。また、御本人様の様子や心身の変化がないか、注意を払いながら防止するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を利用されていた入居者様もいたため、関係者と情報交換等を行っている。新入職員には、権利擁護に関する制度について、資料を用い教育している。	アセスメント様式の中に、権利擁護制度活用の必要性や緊急性について項目を設けている。また、事業所入り口には制度に関するファイルを掲示し、情報提供を行っている。法人内の事例共有も含めて、必要時には活用に向けた支援が行える体制である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に契約書、重要事項説明書の説明を行い、同意を得た上で署名、捺印を頂いている。又、不安や疑問があれば話を傾聴し、一つひとつ丁寧に説明を行い、入居者様、ご家族様に十分に理解して頂けるよう努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様一人ひとりに担当スタッフを配置して、心身の状況を十分把握できるようにし、入居者様及びご家族様が意見・要望を伝えやすい環境作りをしている。玄関にご意見箱を設置し、今後の運営に反映出来るよう努めている。	管理者は、家族が意見や要望を言い難いことを理解し、表出できる雰囲気づくりや積極的な聴取に努めている。各担当者より、日常の様子を伝える手紙が毎月出されており、情報共有と信頼関係づくりに努めている。食事に関する意見が出され、フルーツを追加する等、実際に反映されている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所内のミーティングにて職員の意見を聴き、職員全員で議題について検討をし、必要に応じて業務に反映出来るよう努めている。事業所内では解決困難な問題は、管理者ミーティングで検討し、職員の意見が反映されるよう会社全体が一体となり取り組んでいる。	各種ミーティングが開催され、職員意見の表出や情報共有、研修等の機会として活用されている。リハビリや接遇等に関する委員会も開催されており、重点事項についてはプロジェクトチームも結成され、職員の能力を発揮する場面がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの能力を把握し、業務に活かせるよう職員配置を行っている。業務の達成や努力を評価する事で、向上心を持ち業務に取り組んでいる。給料水準、職場環境についても、会社より前向きな検討が行われている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	面接希望があれば、都度採用面接を実施している。個々の能力ややる気によって、定年後も働ける等、年齢の制限がない。職員第一主義の社訓を心がけ、個々の能力が十分に発揮され、生き生きとして働けるような環境作りを心掛けている。	職員の採用にあたり、年齢や性別等による排除は行われていない。「将来に夢を持てる企業を創る」との企業理念のもと、サービスの質の確保と、職員の生活の安定や幸せを追求することの相互作用を明確にしている。各種委員会活動やプロジェクトチーム、クルーミーティング等、法人全体でチームケアの質の確保と活性化に取り組んでいる。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	社内の研修や学習会の場で人権教育、啓発活動について学び、人権に配慮した対応を行うよう日頃から指導、実践している。特に、言葉遣いに留意し、接遇に力を入れている。	理念や方針の共有、法人内研修やクルーミーティング、委員会活動等を通じて、様々な視点から人権教育、啓発に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修・プロジェクトチームの編成など、職員の経験やスキルに沿った研修を受ける機会を設けている。OJTシートの活用や担当者が責任を持って、一緒に成長できるよう意識して、人材育成に取り組んでいる。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の職員とも交流が持てるよう懇親会や宿泊行事も開催している。他施設の職員と交流を持つことで、情報の共有や抱える問題解決等行っており、サービスの向上に繋がっている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネ、リーダー職員が、御本人様の話を傾聴して、困っている事や不安な事を汲み取り、その情報を職員間で共有して安心して頂けるよう努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス計画書作成にあたり、ご家族様にも意向を伺い、不安の軽減や安心して頂けるケアが提供できるよう努めている。面会時やご家族への手紙を月に1度お送りする等、コミュニケーションを計りやすい環境を作っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス計画書作成にあたり、ご本人、ご家族の意向をきちんと伺いサービスの意向を伺っている。訪問歯科診療等他のサービスの意向も伺い対応に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症の方としての捉え方ではなく、1人の人として、時には一緒に暮らしている家族のように思い、接している。食事の準備、片付け等の出来る事を共に、常に寄り添ってケアにあたるよう心掛けている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にしかできないケアというものがある為、ご家族には随時連絡を取り、状況報告や面会に足を運んで頂けるよう声を掛けさせて頂いている。行事を行う際は、ご家族様にも参加をお勧めし、入居者様と御家族様がより良い関係を築けるよう努めている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時は、馴染みの場所や思い出の場所に足を運ぶよう心がけている。馴染みの場所が遠く、足を運べない方もいらっしゃるため、その際は外の風景を見て思い出話を伺うようにしている。	地域の伝統行事にふれる機会や、特技や趣味を活かした地域文化祭への出品、居室環境づくり等、これまでの馴染みの関係性を大切にしている。アセスメント様式にも項目として設けられているが、記載は少ない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の盛り付け・洗濯物畳み・レクの準備等その他の作業をみんなでできるようにして支え合うように支援している。性格や身体機能を考慮して席替えをするなどして入居者同士が関わり合えるようにしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後に家族から相談があれば、傾聴したり、内容により関係機関と連携を図ることで、急に関係を断ち切る事のないように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様のお話から、その方の思いが何なのかを考えアセスメントを行っている。状態に応じたケアが提供できるよう職員間で話し合いの場を設けている。	アセスメント様式の改善に取り組み、多面的な情報収集の視点を確保している。家族や関係者の協力も得ながら、生活歴等の情報収集に努め、回想法も意識しながら、日常の中でも入居者本人より情報収集に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様からの聴き取りで、入居者様の生活歴を知る事でコミュニケーションが円滑に図れるよう努めている。これまでのサービス利用時の経過を情報収集し職員間で情報を共有する事で、よいケアが提供できるように取り組んでいる		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人ひとり落ち着く場所、落ち着く時間があり、その方に合わせた暮らしができるよう心がけている。また、有する力を発揮して頂き、出来る自信に結び付くよう努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人様や御家族様をはじめ、関係する医療機関等からも情報を頂き、意見交換している。より良いケアが提供できるようサービス計画を作成している。	本人・家族の役割や趣味活動、外出や散歩等が介護計画の中に位置付けられており、ポジティブな視点が確保されている。日々、実践状況を確認し、現状に即した介護計画となるよう取り組んでいる。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録、気づき、状態変化時等、個別に記録を残し、職員全員が情報を共有できるようにしている。記録をもとに、その方の状態に合わせたサービス計画の作成を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の日々の変化に応じてサービスの変更を職員間で話し合い可能な限り柔軟な支援が提供出来るように努めている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に加入し、行事などを通じて地域の一員として、交流を図っている。また、運営推進会議を通じて情報収集を行い、地域行事や活動に参加している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診時は、職員が付き添い情報提供を行うほか、状態変化時は夜間にも電話で相談、指示を仰ぐ等を行い、安心した医療が提供できる体制をとっている。	複数の協力医療機関との連携を図り、訪問診療体制を確保している。また、訪問看護事業所の定期訪問を受け、健康管理や医療との連絡、調整が行われている。希望や必要に応じた他科受診については、家族との連携も図りながら支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制により、定期的な看護師の訪問で、ひとりひとりの健康管理や職員の医療に携わる上での指導を受けている。また看護師から得た情報を主治医に報告する等連携に努めている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の主治医、担当看護師、院内連携室の相談員の方との連携を積極的に図り、関係作りに努めている。必要があれば退院後の準備、対応方法等の指示・助言を頂いている。また、入院時はご家族様にも安心して頂けるよう入退院支援の取り組みを算定している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期には、事業所内で出来るケアについてご家族に説明させて頂き、かかりつけ医と24時間連携をとり、事業所、医療機関一体となって支援させて頂いている。	重度化した場合や終末期のあり方については、入居時に指針をもとに説明を行い、意向を確認している。状況の変化に伴い、その都度の意向確認と方針の共有に努めている。これまでに看取りの実績もあり、協力医療機関との24時間連絡体制を構築している。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回の消防訓練時、心肺蘇生用の人形を用いた一時救命処置や、AEDの使用方法等学び、実践に備えている。また、風水害時の避難先等の確認も実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回入居者様を交えて消防署の立合いの下避難訓練を行っている。風水害時の避難についても民生委員や福祉協力員などから助言を得る等協力体制をとっており、避難先の確認等を行っている。	各種災害対応マニュアルを整備し、昼夜を想定した避難訓練を実施している。また、防犯及び防災に関する研修も実施されている。運営推進会議の中で、地域より情報や助言をいただいている。	訓練時に地域や消防団等の協力を得る機会を確保していくことも検討してください。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりの想いや人格を尊重し、その方に合った声掛けや対応を行っている。居室入室時・入浴・排泄・更衣介助時等には十分な配慮を行いプライバシー保護に努めている。	各種研修や接遇委員会の活動等を通じて、個人の尊重とプライバシーの確保に向けた意識の向上に努めている。また、個別の居場所の確保や時間の流れ等の尊重を心掛けている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分の想いを口に出せない方や、頭では言いたいことを理解しているにも関わらず言葉では言い表せない方もいらっしゃる。「はい」、「いいえ」で答えられる言葉掛けの工夫を行い、自己決定できるように働きかけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の落ち着いた時間、場所を大切に支援している。必要なケアの提供に拒否が見られる際は、声掛けの工夫、対応職員をかえたり時間を置いて再度声を掛け、職員本位にならないよう気をつけている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着て頂く服の選択や、訪問理美容での髪型の注文等おしゃれができるよう支援している。外出時には、バッグ・帽子等の小物を一緒に選び、身だしなみに関心を持って頂けるように支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	2月より配食サービスを利用し、食事を提供している。食事は皆でテーブルを囲み、会話を楽しみながら楽しく食事をして頂いている。食事の準備や片付けは、皆で協力して行っている。	外部業者も活用しながら、カロリー量や栄養バランスに配慮された食事を提供している。個別の希望や状況に配慮しながら、盛り付けや後片付けに力を発揮して頂いている。時折、ホットプレートを用いて料理する機会を設け、入居者の方々も調理に参加している。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	高齢者用の配食サービスを利用し、カロリーや栄養バランスを考慮した食事を提供している。食事の摂取状況やムセ等観察し、食事形態等、その方に合った食事の提供を支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの実施により口腔内の清潔保持に努めている。また、訪問歯科診療を利用し、磨き残しの清掃や歯磨きの仕方のアドバイスを頂き対応している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の排泄パターンを把握し、日中は出来る限りトイレで排泄を行って頂けるよう、定期的に声掛けや誘導を行っている。	個別の排泄状況を確認し、パターンや機能等に応じて、日中は出来る限りトイレでの排泄が行えるよう支援している。法人全体でリハビリや機能活用の視点を重要視しており、排泄の自立への取り組みにもつなげている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に冷水を提供したり、便秘時には腹部マッサージを行ったり、適度な運動を行い便秘予防に努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は入居者様の健康状態や希望に配慮し、基本的には週2回実施している。湯船にゆっくり浸かってもらい職員が健康チェックをしながら会話するなど、ゆったりとした楽しい入浴支援に取り組んでいる。	週に2回程度の基本的な入浴スケジュールは設定しているが、希望や状況、体調等に応じて、柔軟な対応に努めている。浴室スペースの課題もあり、カーテンを設置してプライバシー確保に配慮している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はできるだけ起きて頂き、夜間ゆっくり休んで頂けるよう昼夜メリハリのある支援をさせて頂いているが、体調や状況に応じて休息もとるように心がけている。また、定期的に布団を干して、気持ちよく眠れるよう支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師が薬を持って来られた際、目的、作用について説明を受け、全職員が理解できるよう申し送りを行っている。薬は、職員が管理しており、症状等変化があれば主治医に報告し、指示を仰ぐよう努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の出来る事を把握し、タオルたたみや食器洗い等役割を決めて毎日行って頂くことで、毎日充実した生活を送って頂けるよう支援している。また、買物レクやドライブ等、施設内から出て気分転換が図れるよう努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の希望に応じて、出来る限り散歩・外出・買い物ができるように支援している。季節を感じて頂ける事を目的に、ドライブにもお連れし、外出支援を行っている。ご家族様との外出希望がある場合には、ご家族様に協力して頂き、外出してしている。	地域の伝統行事や文化祭への参加、季節行事の企画等により、外出の支援を行っている。また、散歩や外出を介護計画の中に位置付け、近隣の公園にて地域の方々と交流している方もおられる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は事業所内で行っている。お預かり金の中から、ご本人の希望する物を購入できるよう買物ドライブ等行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	あまり面会に来られない御家族様に、お電話をしたり、また御家族様からお電話を頂いた際、出来る限り入居者様にお取次ぎし、お話が出来るよう配慮している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎食後の口腔ケア終了後、洗面台の掃除、トイレ使用後の掃除の徹底を行い清潔に努めている。フロアには、季節感のある壁面を掲示し、空間作りに力を入れ、少しでも季節を味わって頂けるよう支援している。	3階建ての既存の建物を活用し、2ユニットの生活空間が確保されている。動線の確保や季節感への配慮を行い、テーブルや椅子の配置や壁面構成を工夫している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様の所在が分かるよう、共用空間の中に一人になれる場所はないが、ソファに腰掛けて、気の合う入居者様同士で会話をされる等、思い思いに過ごされている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた馴染みのある家具や仏壇、布団、家族の写真等持ち込んで頂き、過ごしやすい居室の提供を行っている。	各居室はそれぞれ間取りが異なり、箆笥や仏壇等が持ち込まれ、配置や動線の確保に配慮されている。生活感ある居室が多い。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存機能を生かしながら生活して頂いている。日常生活全体の見守り・声掛け・必要時には介助を行い、安全確保に努めている。現在の状態から、維持・改善出来るようリハビリを兼ねた援助を行っている。		